

大型車脱輪 冬に多発

交換1カ月内 ■左後輪 解明進まず

群馬県渋川市の国道で今月十二日、走行中のタンプカーからタイヤ二本が外れ、一本が歩道の四十代男性を直撃、大動脈解離や肋骨骨折などの重傷を負った。国土交通省によると、脱輪事故は冬季に集中。タイヤ交換時や直後の整備不良が原因と考えられ、業界団体を通じて注意喚起をしている。大型車の脱輪は左後輪が極端に多いなどの特徴はあるが、識者は「根本的な原因解明が進んでいない」と懸念を示す。



昼間の国道を猛スピードで転がる直径約一メートルの二本のタイヤ。一本は中央分離帯を乗り越え、反対車線の車の間を擦り抜け、勢いよくフェンスにぶつかり止まった。渋川市の事故で防犯カメラに写っていた衝撃の場面。原因は県警が捜査中だが、運送会社への取材によると、車は昨年十二月に業者に依頼し冬用タイヤに

交換したばかり。事故当日の点検では目立った異常は確認されなかった。国土交通省が二〇二〇年度に起きた大型車脱輪百三十一件の統計をとった結果、七十六件(58%)がタイヤ交換から一カ月以内に発生し、特に冬に多い。「タイヤ交換時期が集中すること業者などの作業時間が制約され、正しい作業が行われていない」と要因を推測している。

交換後の管理不備も課題だ。五十―百キロ走行した後「増し締め」やナットの緩みの日常点検を怠れば危険は高まる。また、二〇年度の大型車統計では脱輪の百二十五件(95%)が左後輪だった。国土交通省は①右折時に走行速度が速いまま曲がり、遠心力により荷重が働く②左折時に、回転方向に対して垂直にタイヤがよじれるように力が働くこと―などを「推定原因」として挙げている。過去には死亡事故も起きた脱輪。二〇年度の大型車における発生件数は統計を取り始めてから最多だ。国土交通省は昨年「自動車の点検及び整備に関する手引」を改正しボルトの交換目安などを規定したが、その中で再び起きた事故。国土交通省は改めて整備点検の徹底を求めている。

一方、交通事故問題に詳しい高山俊吉弁護士は、脱輪の根本的な原因は解明されておらず、整備点検以外にも、車の設計時から危険性を認識すべきだと提言する。「脱輪防止には、保全管理と製造段階の二つの視点を持つことが必要。国土交通省や警察は原因を科学的、徹底的に分析しなければ、また起きる恐れがある」と危機感を示している。

交換したばかり。事故当日の点検では目立った異常は確認されなかった。

